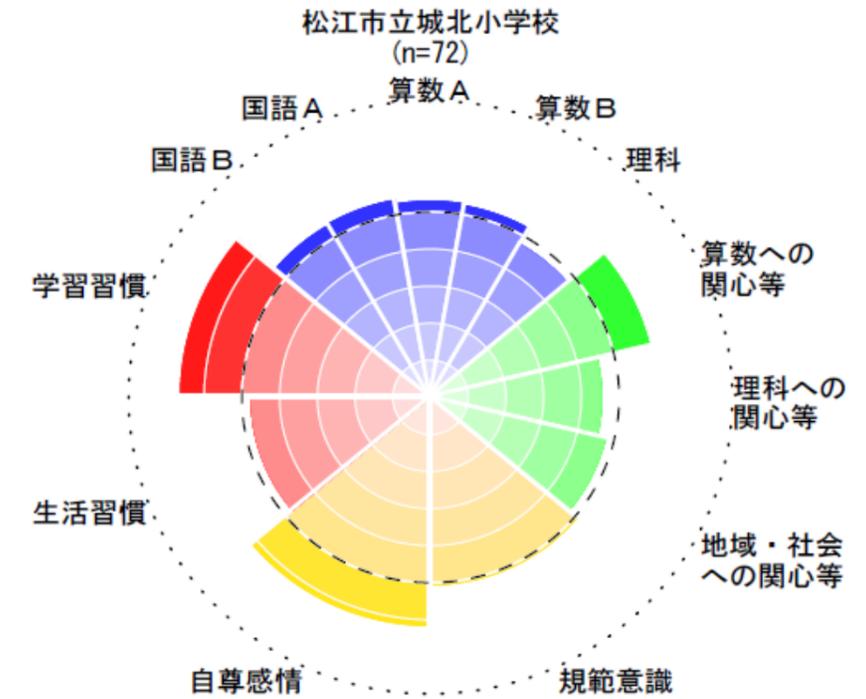


(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果, ●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○1ページに収まる程度の短文の読み取りはできている。 ●書くこと、短答式の正答率がやや低い。 →主語述語のつながりや語尾まで気をつけた正しい文章を書くことが苦手である。語彙も少ない。	・教員が低学年の時から国語の用語を使っていく。 ・テストの直しなど、機会をとらえて正しい文の書き方指導を継続する。 ・長い文章を読むことに慣れるように本を読む。
	B (活用)	○全体的によくできており基本的な力がついている。特に、話す聞くの力がついている。 ●文章を読み取りながら、条件に沿った文を書くことが苦手である。	・条件作文に取り組むことを繰り返し、問題に慣れて、解き方を身につける。 ・読書習慣をつけ、学年に応じた本を読む力をつける。
算数	A (基礎)	○量と測定分野は比較的できている。 ○円周を求める公式などはよく覚えている。 ●数量を数直線や線分図などに表すことは不得手である。 ●公式の意味を理解し、それを活用することが苦手である。	・問題文をさまざまな図（数直線や線分図など）に表して数量の関係性を理解させる活動を多く取り入れる。 ・公式を記憶するだけでなく、その公式ができた過程をフィードバックする学習を取り入れる。
	B (活用)	○記述式の問題の正答率が高い。 ●選択式の問題での正答率が低い。 →長い文章や複数の資料から重要なポイントを押さえることが苦手で、問題を正しく読み取る力が弱い。	・思考を要する問題（選択式の問題、過去問）に取り組み、問題に慣れる。 ・個別指導や習熟度別の授業を行い、個の力を高める。
理科		○「流れる水の働き」等、実際に自分の目で観察したり実験したりした内容についてはよくできている。 ●実験器具の扱い方等、基本的な問題の正答率が低く、事象を関連付ける力や活用する力が弱い。	・実験の目的を明確にし、予想と振り返りの場を大事にしなが、自分の考えを言語化できる力を育てていけるような授業をしていく。

(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



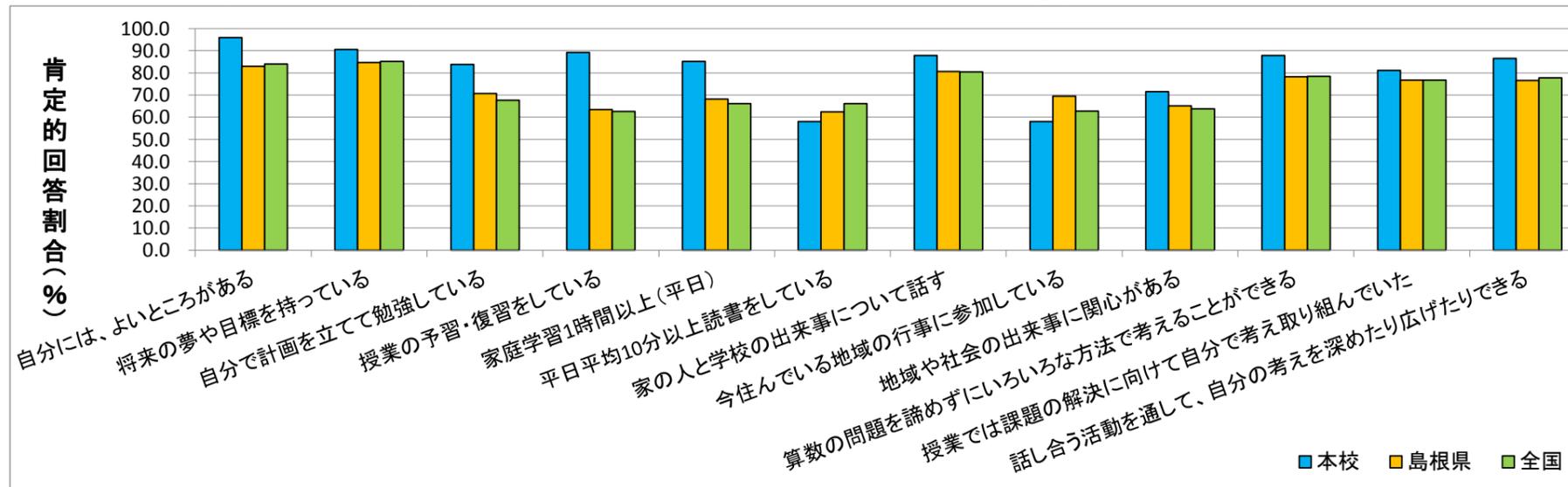
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果, ●：課題)	対 策
		○計画的に、教科書を用いながら予習・復習を行っている。 ●理科において、普段の授業の中で日常生活とのかかわりを意識させるような授業の工夫ができていない。	・理科の有用性を意識できるよう、導入や実験の仕方など授業の工夫をする。 ・学習意欲や興味関心が高まるような導入の工夫をする。

(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書時間の確保。</li> <li>・読解力、漢字で表す力を普段から身につける。</li> <li>・既習事項をくり返し学習する機会を設けたり、復習問題を実施する。</li> </ul>
---

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



【参考】

○平均正答率

		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	74	70	68	70.7
	B	58	57	55	54.7
算数	A	65	62	61	63.5
	B	53	50	49	51.5
理科		59	59	58	60.3

受検者数 72人  
 ※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。